



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

今夏にはラニーニャ現象が現れ、
猛暑になるとの予想が出されています。
農作物に対する害虫の予防防除にどうめがつけよう。

梅雨が明けると強日射と高温に見舞われます。梅雨の間の高温多湿で軟弱に育った野菜は環境の激変で萎れやすくなってきます。不必要となった下葉を整理して樹の負担を軽くし、通風採光を図り莖葉の充実を図りましょう。

農薬が効かない？

農薬は対象害虫が規定されており、防除対象害虫を見誤ったり、農薬の選択を間違ったりすると効果は出てきません。また薬液量が少な過ぎて効果の上がらない場合も多々あります。散布した薬剤が葉先から少し垂れる位やりましょう。できれば薬剤が行き渡るように散布前に整枝を行いましょう。

◎夏野菜の管理

○病害虫防除

今年にはネキリムシやアオムシ、ウリハムシなど害虫の発生が非常に目立っております。さらに特徴的なのはアブラムシ、アザミウマ、ハダニ、コナジラミ、キスジノミハムシといった微小害虫の多発です。これらの害虫は一旦多発すると根絶することは極めて困難となります。作物観察の際には害虫が潜む葉裏をよく観察する習慣をつけましょう。

○整枝

夏季は高温に見舞われますが同じ温度でも空気が停滞すると様々な

障害が出やすくなります。作物の整枝・剪定を行い風通しを良くしてやりましょう。よぐナスやピーマン、シシトウ、トマトなどが過繁茂となっている状況を見受けれます。整枝が遅れると、手をつけられなくなりますので、早めに行いましょう。

○灌水

夏場は水やりが欠かせませんが、実は意外と難しい作業です。野菜は言葉が発せないので水が足りているかは野菜を観て判断することとなります。判断の目安はいくつかありますので総合的に判断しますが、基本的に与えた水が土中に充分しみ込んでいるかどうかはその場で確認する習慣をつけましょう。

○収穫

夏野菜の収穫は始まっていますが、果菜類の収穫目安は着果後、カボチャは約50日後、スイカは約40日程度、マウツウリ類は30日強が目安となります。着果日が不明の場合の収穫目安は、カボチャでは成り首の緑色が半分程度以上褐色となった頃、スイカは成り首に最も近い巻きヒゲが半分以上枯れてから、マウツウリ系統は果皮の黄色が若干オレンジ色がかったかたくなります。



収穫時の巻きヒゲ状況



一旦乾ききった土は、かなり水やりしても土中にはしみていないものです。

漬けウリ類は20cm程度、スッキーニは22〜25cm程度を目安として収穫しついでです。

◎秋野菜の準備

○播種・育苗

今月は早いもので、秋野菜の準備が始まります。7月下旬からキャベツ・ブロッコリー、8月に入ると白菜、お盆過ぎたらレタスの播種となります。8月下旬に入るとキャベツ・ブロッコリーの定植とダイコンの播種が始まります。(前月号参照)

○害虫防除

秋野菜は播種後約1ヶ月後からの定植が始まります。従って圃場準備はお盆過ぎから始まります。近年、土壌害虫の発生が多くなっていますので、土壌処理剤の施用は欠かせなくなっています。特に、根部を加害するキスジノミハムシやネキリムシの対策としてダイアジノン粒剤やスタークル粒剤は必ず施用しておきましょう。

また、近年秋野菜の生育初期にダイコンハムシやヨトウムシによる被害も増えていますが、詳しくは次号で紹介いたします。

◆ネキリムシの防除

カブラヤガなど蛾の幼虫がネキリムシの正体です。昼間は土中に隠れ、夜間に移動して野菜苗の地際部を食害し切断します。老齢幼虫になると一晩で数株を加害するので被害が大きくなります。

ネキリムシは移動距離が大きいので次々と被害にあいます。

他にコガネムシ類の幼虫もネキリムシと言われますが主に地中で根部を食害するため、イモ類の被害が大きくなります。

防除剤(土壌処理剤)

「ダイアジノン粒剤」「カルホス微粒剤F」「フォース粒剤」など。



収穫直前のレタスでも数匹のネキリムシが集って食い倒してしまふ。



コガネムシの幼虫

なお、発生後は株元散布剤として

「ナポント5%ハイター」「ネキリトック」があります。

使用にあたっては登録内容を確認の上施用してください。

◆キスジノミハムシの防除

この虫は幼虫が地中でダイコン、カブなどの根部表面を食害し、品質を著しく落とします。また成虫はアブラナ科野菜の幼苗の葉を食害し穴だらけとし、初期生育を阻害します。

防除剤(土壌処理剤)

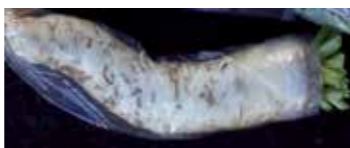
「ダイアジノン粒剤5」「フォース粒剤」「スタークル粒剤」など。

なお、発生後は散布剤として

「スタークル顆粒水和剤」「モスヒラン顆粒水溶剤」を散布してください。



成虫の食害痕



食害痕

使用にあたっては登録内容を確認の上施用してください。

☆お奨め商品

世界的な肥料需要の高まりで価格が一気に上昇して8年が経過しようとしています。今後とも価格が低下することは望めずにあります。こうした中、現行肥料でお買い得な商品を紹介いたします。

ここに紹介する「アグロニックス」は全農がヨルダンに肥料工場を設立して安価な肥料の供給事業から生まれた製品です。NPKの三要素がすべて14%と多く含まれています。窒素はアンモニウム態ですが、地温が高いこの時期の施用においては「あそび」や「アグロニックス」などの遜色はありません。しかも価格は半額近くでホームセンター取り扱いの肥料よりもお得な価格となっていますのでお奨めします。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。